

コンサベーション・インターナショナル (CI) コンサベーション・コーヒー プログラム メキシコ・コンサベーション・コーヒー

CONSERVATION
INTERNATIONAL



コーヒー栽培がもたらす生態系への チャレンジ

世界のコーヒー生産地の多くは、実は、生物多様性が豊かでありながら、破壊の危機に瀕している生態系に位置しています。そのため、栽培方法や栽培場所の選択が、環境に重要な影響を与えることになります。しかし、適切な農法や土地利用を行えば、コーヒー栽培は環境保全の非常に強力なツールとなることができます。伝統的なシェイドグロウン農法(熱帯雨林の木陰を利用した栽培方法)を維持すれば、動植物の保全に対して目覚ましい成果がもたらされることが分かっています。

コンサベーション・インターナショナル(CI)は、世界的なコーヒー企業との協働により、コーヒーのサプライチェーンにおけるすべての段階において生物多様性に対する配慮をとり入れ、環境問題を解決することを目指しています。

CIのコンサベーション・コーヒー・プログラムは、生物多様性ホットスポット内のコミュニティとの協働により、環境に配慮した生育方法によるコーヒー栽培に取り組んでいます。また、このプログラムは、CIが実施する技術支援やビジネストレーニング、環境教育などを通じ、国際市場の動向に左右される生産地の農家の生活の向上につながっています。

メキシコでのコンサベーション・コーヒー プロジェクト

CIのメキシコ・コンサベーション・コーヒー・プロジェクト(MCCP)は、メキシコ南部に残る最後の雲霧林、エル・トリウンフォ生物圏保護区で活動しています。CIは現地の協同組合と共に、小規模農家の生計手段の改善と保護区の保全に努めています。この地域で生産されるコーヒーの多くを、スターバックス・コーヒー社が購入・販売しています。CIは1998年からチアパス地方のシエラ・デ・マードレで、スターバックス社のコーヒー買い付け基準「C.A.F.E.プラクティス」のパイロット・プログラムとして、コーヒー栽培農家との協働プロジェクトを開始しました。

コーヒー生産と気候変動

MCCPでは、メキシコのチアパス地方シエラ・デ・マードレにある5つの保護区において、コンサベーション・コーヒー・ベストプラクティス(CCBP)に基づき、二酸化炭素の吸収と自然保護に貢献するコーヒー生産者に対し、環境サービスへの対価として報酬を支払うシステムを導入しています。森林を保全し、植生を回復し、日陰栽培による植生を増やすことにより、農園の二酸化炭素吸収量は増加します。CCBPに基づき森林を保全し、川岸の植生を回復し、渡り鳥が生息できる多様な日陰樹を使い、水源地の涵養に貢献している農家に対し、報酬を支払います。CIは10年以上にわたるエル・トリウンフォでの活動実績に基づき、コーヒー生産を通じた気候変動の緩和への貢献を目指し、さらなる活動の拡大に取り組んでいます。

MEXICO CONSERVATION COFFEE



コンサベーション・ コーヒーとは？



コンサベーション・コーヒー・プログラムは、生物多様性ホットスポット内にあるコーヒー生産地において、生物多様性を保全するための戦略のひとつです。コンサベーション・コーヒーのプロジェクトは、生産者とともに、生物多様性の保全と生産者の生活およびコミュニティの生計の向上に取り組むための手法として、コンサベーション・コーヒー・ベスト・プラクティス(CCBP)を開発しました。CCBPは各地域のニーズに応じて、適用・管理されています。各国のコンサベーション・コーヒーのパートナーは、以下のようなコーヒー生産とマーケティングにおける継続的な努力を通じて、地域の保全戦略に貢献しています。

- ・ 危機にさらされている動植物種の生息地の持続的な保全を促進する
- ・ 森林や他の原生生息地の開拓を防ぐ
- ・ 化学物質への依存を中止、もしくは減少させる
- ・ 水源地および水質の保全に努める
- ・ 土壌浸食を防ぎ、地力を高める
- ・ 荒れた土地への森林再生、もしくは生産性の高い農地へ転換する
- ・ 保全地域を守り、環境に関連した法規制に従う
- ・ コーヒー生産者への公正な報酬を確保するための透明性を高める
- ・ 生産、加工プロセスにおける付加価値の向上
- ・ トレーサビリティの確立

メキシコ・コンサベーション・コーヒー・プロジェクト(MCCP)には、メキシコ南西部のエル・トリウンフォ村とラ・セブルトゥーラ村の農家918戸が参加しています。参加農家の農園は標高1,000~1,400メートル、年平均降水量は3,975ミリ、年平均気温は21.5℃です。農家の平均規模は生産者あたり5エーカー(約2ヘクタール)で、年間生産量は約40コンテナです。

1997年、CIの現地パートナーのAMBIOとECOSUR(南部国境大学)は、パイロット・プロジェクト‘Scolel Te’を立ち上げ、二酸化炭素の吸収に貢献する先住民農家に対して環境サービスへの報酬を支払うシステムを導入しました。1998年から2006年の間に、AMBIOはバイオクライマティック基金を通じ、98,754トンの二酸化炭素クレジットをボランタリー市場において売却し、先住民集落支援策に採用しています。

バイオクライマティック基金では、農家の自然保護型の土地利用方法への転換により生じる炭素クレジットの売却価格(二酸化炭素1トンあたり約8USD)の、約3分の2を農家に支払っています。同基金では、CIとの協働により、活動をさらに8年延長する予定です。



AMSA-ECOMはメキシコでの輸出事業パートナーとして、世界中のバイヤーにコーヒーを輸出しています。指定ミルでは最新機器を使ってコーヒーの輸送準備を整え、バイヤーのカップクオリティの基準を満たすよう、すべての輸出ロットのカップ検査を行っています。プロジェクトのミリングを担当するパートナーは米国スペシャルティコーヒー協会(SCAA)による、品質評価と等級を採用しています。



プロジェクトがもたらす便益

日陰栽培と水質汚染防止: 日陰樹の多様性を促進するために、種子を集め、ハルテナンゴ地区の訓練センターに専用の苗床が作られました。これまでに18品種の苗、約19,000本が農家に配布されました。2003年の調査によれば、農家より10,000本以上の在来種の日陰樹が植林され、育成されています。また、水質汚染の防止にも取り組むため、水のろ過方法も導入しました。

生物種の保全: エル・トリウンフォは、絶滅危惧種であるケツァールやジャガーの最後の生息地の1つであり、ピューマ、オセロット、ツノジャクケイなども生息しています。アグロフォレストリー・システムの導入により、コーヒー生産地が生息地を結ぶ役割を果たし、生物の移動のための回廊を提供しています。2006年の調査によると、この地域で日陰栽培を実施するコーヒー農園は、105種の鳥の生息地になっています。

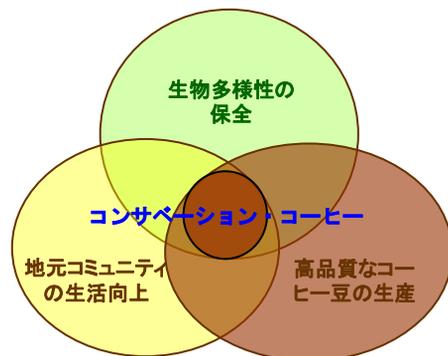
農家への恩恵: パートナーを通じて、CIは、高品質のコーヒーに対してプレミアム・プライスをつけるスペシャルティ・コーヒー市場において、バイヤーと参加農家をリンクさせることを目指しています。MCCPは、技術支援やビジネストレーニング、環境教育などを通じ、国際市場の動向に左右される農家の生活を向上させることができました。また、CIは**ヴェルデ・ヴェンチャーズ基金**を通じて、低利融資を提供する支援も行っています。

CIは、世界のコーヒー産業が、生物多様性が危機にさらされている地域の保全に有効な戦略を作り上げることを目標にしています。

- ・コーヒーの調達決定時に、保全評価基準を取り入れること
- ・環境的に持続可能なコーヒー生産を推進する公共政策を推進し、インセンティブを形成すること
- ・コーヒー生産に影響を受ける生物多様性ホットスポット内の地域において、保全地域の拡大に向けた投資目標を設定し、地域ごとの保全計画に活動を取り込むこと
- ・コンサベーション・コーヒー・プログラムが実施されている地域への財政的、技術的支援を行うこと
- ・これらのプロジェクトで生産された高品質かつ持続可能なコーヒーのマーケティングを支援すること



ヴェルデ・ヴェンチャーズ基金: 生物多様性の保全上重要な地域における小規模事業者への低利融資を実施する基金。スターバックス社、地球環境ファシリティ(GEF)などからの出資を基に発足。CIが生物多様性保全戦略に沿って管理・運営している。



この資料に関するお問い合わせ:
 コンサベーション・インターナショナル
 日本プログラム
 TEL: 03-6911-6640
 E-mail: ci-japan@conservation.org